

HiPeR 特別セミナー

巨大地震によって火山活動が変化する事を 説明するモデル実験

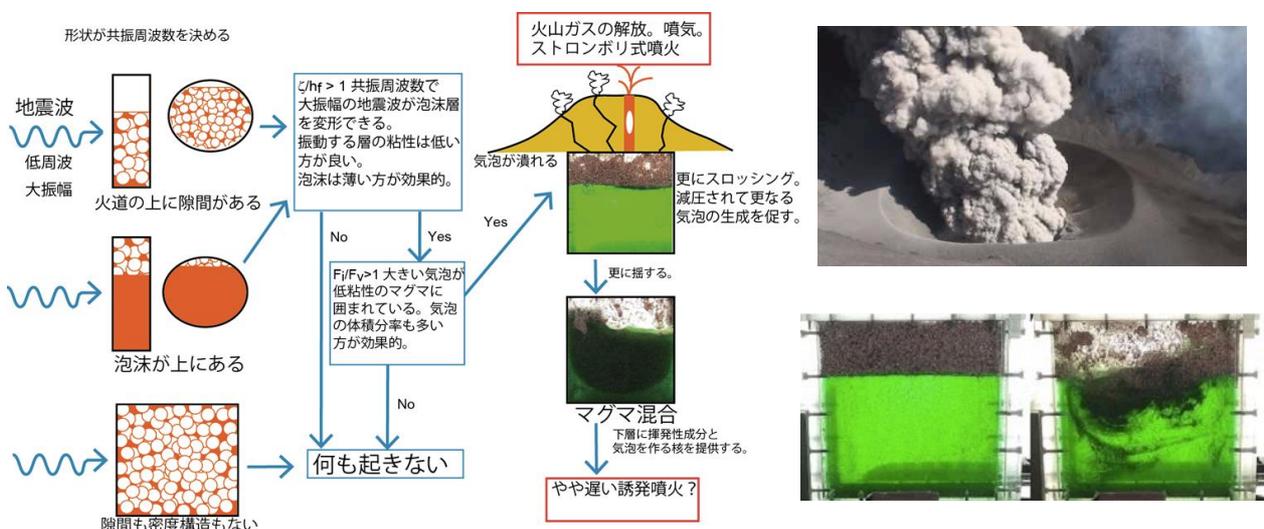
Experimental studies explaining the changes of volcanic activities caused by large earthquakes

並木敦子 准教授

(広島大学大学院総合科学研究科)

11月30日(金) 16:20~ 理学部 B棟 603 講義室

最近の統計学的解析により、巨大地震の後に火山噴火の回数が優位に増加する事がわかっている。一方、火山活動の減少を思わせる、火山体の山頂付近の沈降や火山ガス放出量の減少も巨大地震の後に起きる事が近年報告されている。巨大地震に起因する振動によって火山体直下に存在するマグマ溜まり内にスロッシングが起き得る事、また、山体の共振による応力集中がマグマの移動を促進する事を、実験により検証した結果を紹介する(Namiki et al., JVGR 2016, Geology in press)。



問い合わせ先：藪田ひかる(理学研究科)
 hyabuta@hiroshima-u.ac.jp



広島大学 プレート収束域の物質科学研究拠点
 Hiroshima Institute of Plate ConvErgence Region Research